

ト在
交ハ

ト在
交ハ

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, written in cursive style.

茨城郡下真壁郡自由黨多等教
十名奉旨ノ念アル趣本日電波アリ
價ヲ口録所至聖奉分署ヲ社長ト
金品ヲ奪多ル趣新報云ハ且亦奉
日崎玉録ニ於テ茨城郡人幸村仙太
郎ナルモノヲ捕縛シタルニ不
謀ヲ自白セシ趣是亦報急アリ
目下夫ノ者密自取中ニ有ル上
報以テ了申上ル一其先以テ
此ノ事

十七年九月廿四日 由好郷山縣指剛

之傳天以去以成

九月廿四日午後七時着茨城野電

坂
下真壁郡自由党員富松正安小
党員三拾名程義兵ヲ奉ハトラ新治
郡加波山へ進軍タリト又一説ハ古拾名
程ト云ヘリ只今報告アリ此段上申ス事
細ハ詳ナリ

九月廿四日午後七時茨城野電
昨夜十二時暴徒町屋分署ヲ襲ヒ金
品ヲ奪ヒ高市申及ヒ各村地ニ於テ
砲ヲ目下者密手配中事細ハ後ナリ
九月廿四日午後四時埼玉野電

茨城縣人幸村仙吉印不馬ノ奉勅ル旨
 捕縛尋問セシ所見ニテ自由
 竟久ノ内東京ニ吉田一即宇都宮
 今川義光各巨魁トナリ大臣參議其
 他ヲ要野セント企テ銃器洋薬爆
 費物ホ準備惣一タル旨自白セリ至
 急亦自死アリタシ事如ハ跡ヲ

当地真ノ赤磔部ハ汎

遣ミタレトシテ暴徒ト

昨夜加波山ノ下カハサシノミタレニ出立

暴徒烈ク暴徒トシテ

二三名肩傷セリ目下進

撃中委細進々ハ報知

急
亦
自
死
アリ
夕
に
あ
ぬ
に
跡
あり

当地コノ毒毒登登部部ハハ汎汎

遣ミヤル迎ミヤル重重トト早早希希後後ト

昨夜カハサシノミ下下出出令令也也

暑暑徒徒烈烈リリ奈奈砲砲ニニ迎迎重重

二三二三名名肩肩傷傷セセリリ目目下下進進

撃撃中中委委細細進進々々以以報報知知

及及フ

傷傷費費

後後復復命命也也

也也理理

大大書書記記也也

茨城縣人幸村仙を仰不爲ノ奉勅ル身
捕傳尋問セシ所奉之千七百自由
竟多ノ内東京ハ吉田一郎守都官ハ
今ハ義光各巨魁トナリ大至ス義

茨城縣下自由党負暴舉ノ儀
ニ付上申

茨城縣下自由黨等暴舉ノ義不取敢及
上申置候未追捕方夫々手配中一昨二十五
日別紙一号電報有之就テハ連累各地隱伏
シ奈何ノ舉動ヲ爲スヤモ測ラレサルヲ以テ近接
諸縣ハ特ニ戒嚴ヲ加ヘ其他各府縣ヘモ警戒
セシムルノ電報ヲ連シ置尚思考スルニ暴徒ノ
情状尋常農民ノ嘯集セシ類ト異ナルヲ以テ府
下憲兵派遣ノ義ヲ陸軍卿ヘ照會セリ續テ該
縣ヨリ二号三号電報アリ尚又昨二十六日早
朝該縣警部ヲシテ四号書ノ通二十四日以来ノ

景況ヲ詳報セリ是ヨリ前埜玉縣ヨリ別紙五
号電報アリ是レ即チ向キニ上申セシ該縣捕
縛目下取調中ナル幸村仙太郎ナルモノ、自白ニ
係ル事由ナルヘクト被考是亦夫々手配中ニ
有之候右ハ昨二十六日マテノ景況概畧ニ付此段
上申候也

明治十七年九月廿七日

内務卿山縣有朋



大政大臣三條實美殿

追テ今晚六時七時電報ニテ有相添也

一
号

九月二十日

日野伝、電報

出向地ヨリ自其時、
暴徒五、六人、
傳り目下自道中、
申一、ス、及、

子
格
首

九月廿五日午後六時四十分倉太右衛門著
衣手取合代理張員大右衛門在任自是迄

暴徒昨夜格闘、後、天引山中邊に逃レシ
模様ナリ加波山に在ク處より聲、女子ニ占有ヤリ
猶續ニ追捕中ナリ

加波山

加波山

三号

茨城縣ヨリ警務局長宛電報

九月廿五日午後十一時敷
廿六日午前四時着

辛酉夜加波山下ノ邊ニテ巡查格闘セシ時暴徒

モヨホト狼狽セシヨシニテ爆発物ヲ持テテ

箱ヲ奪去リ又勇奮奮突進敵死シテ後已ムノ所

及ヒ微文草繕書類等ヲ得タリ又同夜暴

徒一人即死シタルヲ發見セリ

内務省

四号

九月廿六日 午前七時茨城縣磯貝谷記官ヨリ

警部補杉浦正木ニ左ノ書面ヲ携帶セシメ着

京ヒリ 同人ト同一時登陸ス

一昨廿三日ヨリ今廿五日午前七時迄ノ宛

徒暴況追々電報ヲ以テ御報道及ヒ置彦得

共其大畧別紙ニ記載警部補杉浦正木ヲシ

テ携帶及御通報彦也

明治十七年九月廿五日

縣令代理

茨城縣大書記官磯貝静蔵

警保局長宛

九月廿四日午前九時過キ町屋分署ヨリ巡

内務省

査二人ヲシテ急報ヲ持テ登シタル処一
途中ニテ兎徒ノ為メニ遮ラレタル旨ニ
テ一人ノ之着急報ニテ管下下館町自由党
富松正安等三十餘名時二十三日午前十一
時頃ヨリ加波山ニ集合シ義兵ヲ擧グルト
テ容易ナラザル景況ノ旨報シ兎徒中河野
廣幹横山新六小林徳太郎等ニ加ハリオ
ト云フ依之直ニ警部二名同補走名巡查三
十人ヲシテ兩隊ニ分チ一ハ真壁郡町屋口
ヨリ一ハ新治郡柿岡口ヨリ狭山ニ夜襲ス
ル目的ニテ途次警察署久署等ノ巡查ヲ集
メ出發セリ
今日午前十時柿岡分署ヨリ右件ヲ急報セ

リ
今日午後第一時先ニ遮ガラレタル急
報ノ巡查書面ヲ持シテ米ノ決報ニ曰ク加
波山上ニ在ル神社拝殿ハ廿三日午前十一
時比ヨリ十四五名ノ自由党員等各刀劍銃
砲爆烈藥等ヲ携ヘテ集合シ該社参拝ニ登
山セシ人民ヲモ取押ヘ置トテ賄ヒ等ヲ為
サシムル目的ナル由ニテ右祠官宮本正慎
十名義兵ヲ擧グル云々ニテ社務所、賄方
等ヲ依頼セシ由ナリ
廿四日出張警部ヨリ暴徒ノ檄文ヲ得テ之
ヲ送レリ

廿四日午後二時町屋分署ヨリ報アリ曰ク
昨夜十二時兇徒等發砲シテ町屋分署ヲ襲
撃シテ金品ヲ奪掠セリ又真壁所及ヒ櫻井
村等ノ民家ニテ金品ヲ掠ノリ故ニ村民ノ
動揺一方ナラザル趣ナリ依テ直ニ警部
名巡查十五人ヲ引率セシメ町屋一向ケテ
出発セリ
廿四日夜十二時発羽黒分署ヨリノ報ニ午
後十時警部二人巡查十九名ヲ率ヘ羽黒分
署ヲ発シ巡查二人ヲ存候トナシ町屋分署
ヲ指シテ進行セシ処真壁郡加波山邊東飯
田村ト小幡村トノ間ニ於テ突然存候二人
ヲ捕ヘラルヤ乍テ爆烈藥ヲ乱発シタル

ニヨリ寸時格闘爲メ別紙之通警部存人
巡查三名負傷シ即死走人アリタリ依テ不
得止一時羽黒ニ引揚ゲタル旨ヲ報セリ依
テ尚ホ警部一人警部補一人巡查二十人ヲ
出發シ目下進撃追捕ノ手配中且東京鎮台
等ヘモ景状不取敢通牒致シ置候
右暴徒ノ目的トスル所ハ那ノ邊ニアルヤ
確認難致差當リ唯檄文ニテ其一班ヲ知ル
ルニ其人負ハ最前目撃スル所ニテハ二三
十名ノ者ニ付縱令銃砲爆發彈等ヲ携帯ス
ルモ固ヨリ一時ノ事ニテ日ヲ出テヌシテ
捕縛平安ニ歸シ可申トハ被存候得共連累
ノ者埼玉縣下ニ於テモ昨廿四日捕縛相成

侯次第ニ有之殊ニ東京接近ニ有之又他
ニ連類暴舉ノ懸念モ不少且既ニ警部巡查
等ニ死傷ヲ為サシメ侯上ハ所謂死ニモノ
狂トナリ他郷ニ脱走或ハ如何ノ変事ニ可
至モ難斗ト彼是苦慮罷在侯尚此後ノ景状
ニ寄りテハ本縣モ巡查僅少ニ付警備應援
ノ爲メ東京ヨリモ派遣ノ義豫メ用意方警
視總監へ依頼致レ置申侯尚詳報ハ追ニ御
報道可及侯

幕後檄文

抑モ建國ノ要ハ衆庶平等ノ理ヲ明カコシ若天
兵ノ福利ヲ均シク享クルニアリ而シテ政府ヲ
置クノ趣者ハ人民天賦ノ自由ト幸福トヲ扞護
スルニ在リテ決シテ苛法ヲ設ク壓迫ヲ施スヘ
キモノニ非ラカレ也
然リ而シテ今日我國ノ形勢カク觀察スレハ外ハ
條約未ダ改マラス内ハ國會未ダ開ケス爲メ其臣政柄
ヲ弄シ上聖天子ヲ蔑如シ下人民ニ對シ收斂時
ナリ餓寒道ニ横ハルモ之ヲ換スルヲ知ラス其慘状苟モ
志士仁人タル者豈之ヲ黙視スルニ忍ビシヤ
夫レ大厦ノ傾ケルハ一木ノ能ク支フル所ニ非ラスト雖モ奈
何リ坐シテ其倒ルルヲ視ルニ忍ビシヤ

故ニ我々新ニ革命ノ軍ヲ茨城縣直壁郡加波山上ニ
 舉ケテ以テ自由ノ公敵タル專制政府ヲ顛覆シ而シテ
 完全ナル自由立憲政体ヲ造出セリト欲ス嗚呼我ニ千
 七百五ノ同胞ヨ我党ト志ヲ同フセト但ニ大義ニ志スル豈
 正ニ志士仁人ノ本分ニ非ラスヤ茲ニ檄ヲ飛ハレテ天下兄
 弟ニ告グトスル

明治七年九月廿三日

茨城縣

高松正安

玉水嘉一

保田弱吉

福島縣

杉浦友副

之浦文次

五十川元吉

子野作馬

栃木縣
鹿沼縣

山口雪吉郎
天野市吉郎
琴田岩松
原利八
河野廣体
横山信六
小針重雄
平尾八十吉
小林篤吉郎

借入金証券

一金貳拾圓也

右者令般吾黨現政府ノ願覆スルニ當リ
創業ノ際無止前顯ノ金額正借申
付テハ事業大成シ遂クタル時ハ必ス返却
雖モ若シ事業成ラサルハ返却不致也

九月四日

福島縣

河野廣休

三浦文次

五十川元吉

栃木縣

平尾二十吉

中村秀太郎殿

九月五日午後二時二十五分東京日取丸が着
崎玉縣越田町江中より電報

茨城縣下生石郡下館士族富江正安
福島縣三春町士族河野廣伴、二名
日志ヲ為カシ要路顯官ヲ暗殺シテ政府ヲ
轉シ度スルノ目的ヲ當縣下西葛飾郡中
田町平氏小久保喜七ト氣脈ヲ通シ暴徒
ヲ企メル折柄本月二十七日栃木縣岡野式
ノ聲アリ大臣考議ノ臨臨セラルハ、同キ其
日ヲ期シテ一方ハ小久保表七幸村仙太郎小
池信を以同盟者拾名録ヲ率イテ東京
ニ一方ハ富松正安河野廣伴日盟者拾名
録ヲ率ヒテ宇都宮ニ日時ニ集ルルニ現官ハ

憲ヲ殺戮セシト得儀一法ニ小久保ハ中
田文武館ニ刀劔二十本余ヲ準備シ内七本
ハ富松方ヘ廻送セリ下館有為館ハ刀
劔タイナマイト等ヲ準備シ且内長河
ヲ小久保方ヘ廻ス苦津京ハ明ニ二十日夜
ヨリ翌ニ二十七日未明ニ掛テ起リ顯官ノ自
郎ヲ襲撃シタル上目黒火藥所ニ乱入シ該火藥
ヲ奪ヒ富松郡馬地方ヘ退キ再軍ヲ謀ルト云宇都
宮ハ廿七日開廳式ニ乗シテ乱入スルカ又ハ古河ヨリ宇
都宮ノ途中ニテ要撃スルカノ二策アリト云フ此段
御通報及フ

六号

九月廿六日午後十二時三十分着儀又茨城縣
書記官ヨリ山縣向務卿宛電報
暴徒十四名本日午前一時頃真壁郡小栗村休憩
所ヲ襲ヒ暫時柵關柵木際下真岡村地方ヲ指シ
逃走續テ追跡中

七号

九月廿一日午後三時智茂縣出張
増田書記官より電報

晨後四日、夜逃者ト聞乎ト示引山下
戸長自由堂自勝田精一郎方、立寄リ其後
踪跡不分明、茨山仲、入りト、説し其多分
栃木地方、向、トラン、族方面、現今逃者ハ拾名
出張専ラ探索中、外取締、而根ハ準備
仙波兵庫ハ昨夜逮捕、殊山清良、未
分

由好方上中

新編下自中堂名表
年一版

明治十七年九月廿日

内閣書記官

大政大臣三條實美殿

左大臣増田親王殿

参議大木喬任殿

参議山縣有朋殿

参議伊藤博文殿

参議西郷從道殿

参議井上馨殿

参議山田顯義殿

参議松方正義殿

参議川村純義殿

参議福岡孝弟殿

参議佐木篤行殿

内務卿岡田清行殿

紙 達 送 年 治 明

第 一 月 一 日	第 三 時 五 分	九 月 廿 七 日	第 一 號	報
分 局	分 局	分 局	分 局	分 局
字 號	字 號	字 號	字 號	字 號
分 局	分 局	分 局	分 局	分 局

八時五分

大由
立河
橋本
橋山

何野渡中校浦去割ハ因
家高ヨリ捕知只存後送
シ来リ外ニ公去進川三
回断強凌ハ事取其地教
私ニ去リ月ニ事取其地教
香向ニ祝問ハ上

明治 年 送 達 紙

技術	局	第	報
	九月十七日	分局	第
午八時四十分	月	第	報
日	分局	第	報
字	字	字	報
字	字	字	報

スベテ電信ヲ頼ミ出ルモノハ通信規則ノ通リ心得テ事

大連 總興 福島 福島 福島

福島 福島 福島

頃孫全松福島外領契の
等々多矣其の捕縛ヤ
中其可也

三川 十 十 十

大連 總興 福島 福島 福島

大連 總興 福島 福島 福島

明治 年 送 達 紙

技術	局	着	局	發	第	第	第	第	第
	一月一日		字	字	字	字	字	字	字
	午後八時十分								

大へて電信ノ類ニ出
ルモノハ通信規則ノ通
リ心得ルキ事

大迫 徳 忠
折田 振 木 物 隆 行 長

此中河多捕頭ノ職ニ初め紅三喜山ノ捕頭
即天時市多ノ西名ノ不取取佐伯
正門ノ河時佐佐木主信名ノ人ノ有也
捕頭アリタル佐伯ニ其母ノ有也
一服ニ括ラケル河時佐佐木也

明治 年 送 達 紙

技術	局	着	局	發	第	第	第	第	第

大迫 徳 忠

折田 振 木 物 隆 行 長

此中河多捕頭ノ職ニ初め紅三喜山ノ捕頭
即天時市多ノ西名ノ不取取佐伯
正門ノ河時佐佐木主信名ノ人ノ有也
捕頭アリタル佐伯ニ其母ノ有也
一服ニ括ラケル河時佐佐木也

九月廿七日

九月廿七日	和親列所ヨリ電報	大田村	大田村
和親列所ヨリ電報	大田村	大田村	大田村
大田村	大田村	大田村	大田村
大田村	大田村	大田村	大田村

九月廿七日十二時十五分發

和親列所ヨリ電報

大田村

大田村

大田村

白紙セリ

大田村

大田村

→七年

大田村

三條方政

同書

此項借電流之極本報者電報本河野廣
體がト主として、其ノ人ナルニト云フコトハ、
領事地ノ於テ、口合外報、其ノ旨は、今迄、其ノ如
ク

明治十七年九月七日 大田狂二親撰

三條吉政大臣殿

見
録

九月廿八日午前六時半着
栃木孫樺山中記官昇發保局長宛

河野廣舩杉浦吉副ハ氏家伯ニテ捕傳唯
今獲送ニ来レリ外沙若表連川ニテ同断捕徒
ハ東京其他ハ散乱、首ヲ取敵又ハ報ス事細
見同、上

同時白取北田新部長ヨリ
表連川ニテ捕傳ノ賊ハ福島孫三春天野
市右郎山口守太郎、両名ヲ取敵又上申ス

九月廿八日午刻約四十名若十有者人見茨城牧后
電報 丞保長衣

兎後、已散乱此上、潜伏者、密復スルニ、
各地より此地方、出張、巡査、追、差、戻、併、し
自由党員、中、隠、其、後、之、関係アリト
捜査上、好、色、ル、モ、ハ、此、際、意、ヲ、拘、引、不、良、後
一、機、致、ス、見、込、言、已、了、看、手、使、シ、ル、此、江、少、多、者、
シ、少、止、昌、今日、帰、産、致、ス

後城縣所行可所行一因非是有る名是也
依電覽也

以以十七年九月廿六日

大田村記

三條太政大臣殿

及、神事也

誓 祈 願

延喜式卷之九十九

古賀郡下成理

新入作法部

新入作法部

先、靈地、不、為、神、者、其、加、波、山、言、其、人、已、引、向、在、為、
祇、津、山、之、在、神、社、中、宮、也、殿、(在、自、北、言、年、あ、た、の、
十、四、名、人、負、者、の、御、洗、地、界、然、其、少、指、者、言、之、集、其、
氣、地、病、の、山、之、人、臥、之、押、了、其、始、等、其、言、之、公、名、也、
又、經、社、御、宮、中、向、法、(在、定、山、下、在、一、た、為、
其、好、山、之、名、人、引、其、一、御、之、送、其、山、上、社、務、所、
初、為、定、第、二、等、一、中、去、御、之、事、其、為、同、年、
其、人、(初、年)其、山、密、地、其、地、法、其、署、其、地、告、其、
其、休、者、也

延喜式卷之九十九

新入作法部

誓 祈 願

孫如欲位何之深あるべき也

警報

と戸部河野廣作様山形に伺ひ申上座に他
下地地方の御事より之を悉く其旨に於て御事
の由り也

第一号

不乃抑(抑) (共其等如之愛國の志士
者十名に解り此度義兵に奉り以て
政事より改良せり一念止公解り只一人
の事ゆゑ指回右界多う致廣く其間責
を十分の國家に為其志に貫り
防費減之程人氏代り希等致候事
由ハ防費多し山に上之難に辨

九月十日

宮本止博殿

宮田 松止安

内親殿

警報

かたし言事

Blank lined area for text.

かたし言事

Handwritten Japanese text in vertical columns, starting with '心下難き'.

ルロト云々
右四ノ中ノ一ニシテ... 運業... 由傳...
セリト云レバ... 又ノ者... 且...
ノ端... 決...
エト... 我...
多... 追...
七... 報...
ク...

柳... 新...
多... 報...
ク...

茨城... 下... 景... 奉... 皇... 若... 伯... 門

乾... 傳... 儀... 奉... 景... 徒... 皇... 況

大... 竹... 田... 崎... 也

明治十七年...

内閣書記官

太政大臣三條實美 殿

左大臣熾仁親王 殿

大木喬任 殿

山縣有朋 殿

伊藤博文 殿

西郷従道 殿

井上馨 殿

...

二二 不即如也

茨城縣下暴徒、義ニ付
上申

茨城縣下暴徒、内四名ハ向ニ既ニ枋
木縣下ニ捕縛尔來餘黨追捕方嚴密手
配候處頃日東京ニ於テ一名山梨縣下ニ於
テ三名静岡縣下ニ於テ一名捕獲イタシ候依テ別
紙暴徒人名中就捕未就捕等ヲ記載シ此
段上申候也

明治七年十月六日

内務卿山縣有朋

明治七年十月六日

左大臣熾仁親王殿

内務省

茨城縣加波山暴徒人名

未就捕

富松正安

十月十日府下元所捕獲

玉水嘉一

十月四日 山梨縣三捕獲

保田駒吉

九月廿七日 氏家宿三捕獲

杉浦吉副

全廿九日 板橋宿三警視廳手捕獲

三浦文治

十月十五日

三田小山所に於て捕縛
未就捕

五十川 元吉

十月二日

深山富岡門前に憲兵
一手に捕獲

草野 作馬

九月廿日

喜連川に警察の手
捕獲

山口 守太郎

全

石全 新

天野 市太郎

吉谷 武夫
就捕

栗田 岩松

全

原 利八

九月廿日

氏家 驛に捕獲

河野 廣躰

十月四日

山梨縣猿橋に警視廳
より追跡捕獲

横山 信六

十月四日

静岡縣に捕獲

小針 重雄

九月廿日

加波山に門死

平尾 八十吉

十月四日

山梨縣に捕獲

小林 萬太郎

本月六日及上申置候茨城縣暴徒未就縛
内玉水嘉一昨日當府下元町警言察署於
琴田岩松昨日新宿警言察署於逮捕
セシ旨警言視廳ヨリ申出候付此段上申候也

明治十七年十月十日 内務卿山縣有朋

左大臣熾仁親王殿

内務省

福島人

琴田岩松

右茨城暴徒内逃走者有之其處昨夜十二時新宿
警察署に於て捕縛せられたる者此取申上り也

明治十七年十月十日

大迫警視總監

有栖川左大臣殿

警視廳

本署三十八日

明治十七年十月十日 大司警

本署三十八日 大司警 明治十七年十月十日

警視廳 大司警

本月六日以来未逐々及上申置候茨城縣
暴徒之内五十川元吉ナル者昨十五日
當府下高輪警察署ニ於テ逮捕セシ者
警視廳ヨリ申出候ニ付此段上申候也

明治十七年十月十六日 内務卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿

内務卿上申茨城縣下暴
徒人名高覽二供ス

明治十七年十月七日

内閣書記官

太政大臣三條實美 殿

左大臣熾仁親王 殿

右大臣大橋元 殿

参議山縣有朋 殿

参議伊藤博文 殿

参議西郷從道 殿

参議井上馨 殿

参議山口顯義 殿

参議松平定義 殿

参議川村純義 殿

参議福岡孝弟 殿

参議佐木高行 殿

須城縣暴徒内一昨日来在通捕所此及上
中仕也

西原千太郎

大迫隆徳 徳監

有栖川左大臣殿

須城縣

山梨縣(通捕所)

保多助吉

愛知縣

同上

小林篤令郎

福島縣

同上

横山新六

女言見

Handwritten text in vertical columns, likely a list of names or titles, possibly related to the courtiers listed on the left page.

Handwritten text, possibly a signature or a specific title, located below the main list of names.

次世暴徒、内五十二川
元吉捕縛之件
供高之

明治十七年十月十六日 内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

参議大木喬任殿

参議山縣有朋殿

参議伊藤博文殿

参議西郷從道殿

参議井上馨殿

参議山田顯義殿

参議松方正義殿

参議川村純義殿

参議福岡孝弟殿

参議佐高行殿

茲據某侍郎巨魁呈稱
備松正安捕
縛之了 亦經結案內中

明治十七年十一月

内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

参議大木喬任殿

参議山縣有朋殿

参議伊藤博文殿

参議酒井清殿

参議井上馨殿

参議山口久殿

参議松方正義殿

参議鄉村純義殿

参議福岡孝篤殿

参議佐高行殿

内閣同書田中清成殿

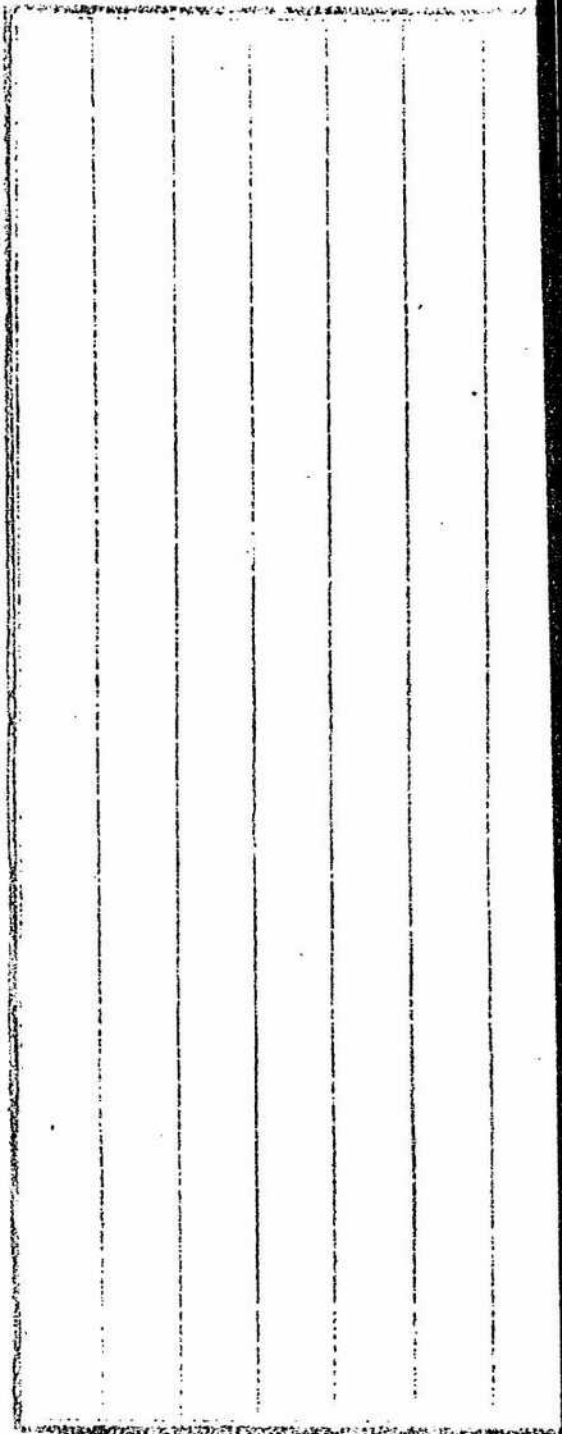
見方四拾五年
茨城縣下加波山暴徒拾六名内福島縣耶麻
郡下柴村平民原利ハ一名ハ未夕蹤跡ヲ得
サリシ處去レ六日福井縣ニ於テ捕縛シタル旨申
報有之候條此段爲御倉内申候也

見方四拾五年
茨城縣下加波山暴徒拾六名内福島縣耶麻
郡下柴村平民原利ハ一名ハ未夕蹤跡ヲ得
サリシ處去レ六日福井縣ニ於テ捕縛シタル旨申
報有之候條此段爲御倉内申候也

明治十八年二月九日

内務卿伯爵山縣有朋

太政大臣伯爵三條實美殿



内務省上申

茨城縣下暴徒ノ内原利

ハ捕縛ノ件

右方ノ見ニ供ス

明治十八年

内閣書記官長

大政大臣爵三條實美殿

左大臣爵熾仁親王殿

参議伯爵大木喬任殿

参議伯爵伊藤博文殿

参議伯爵山縣有朋殿

参議伯爵西郷從道殿

参議伯爵川村純義殿

参議伯爵井上馨殿

参議伯爵山田顯義殿

参議伯爵松方正義殿

参議伯爵大山巖殿

参議子爵福岡孝弟殿

参議伯爵佐永高行殿